1127

30

保存期限

決裁指定

決行指定

政務次官 参與官 回付 決裁 前後 連帶課名

受領番號 八一三號

起元廳(課)名 調査部

決行(決裁)後 回覽課名 印刷掛

件名 出版物送付ノ件

大臣 委

政務次官

参與官

書記官

審案筆記者

次官 委

高級副官 委

主務副官 宮房御用掛 主計

主務局長

主務課長

主務課員

主務局課

番號	受領	提出
	昭和 年 月 日	昭和九年三月六日

大臣官房

受領	了結
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

捺印係 乙書

本省ヨリ内務省ヘ送付案

一、不安ナル歐洲の政情

右陸軍省調査部ニ於テ發行ニ付出版法第四條ニ依リ

製本　貳部送付ス

閣書第二〇七八號　昭和九年四月六日

アジア歴史資料センター

1129

不安なる歐洲の政情

昭和九年四月五日
陸軍省軍事調査部

アジア歴史資料センター

1130

1131

不安なる歐洲の政情

目次

前言……一頁
歐洲を擧げて獨裁右傾の流行は何が故か？……二
歐洲に於ける平和機構の改變……五
歐洲危機の禍根は平和會議に在る……七
最近歐洲國際關係の微妙なる動き……一三
一　蘇獨關係の惡化……一三
二　蘇佛の接近……一四
三　蘇聯邦の非孤立化……一五
四　波獨の接近……一八

アジア歴史資料センター

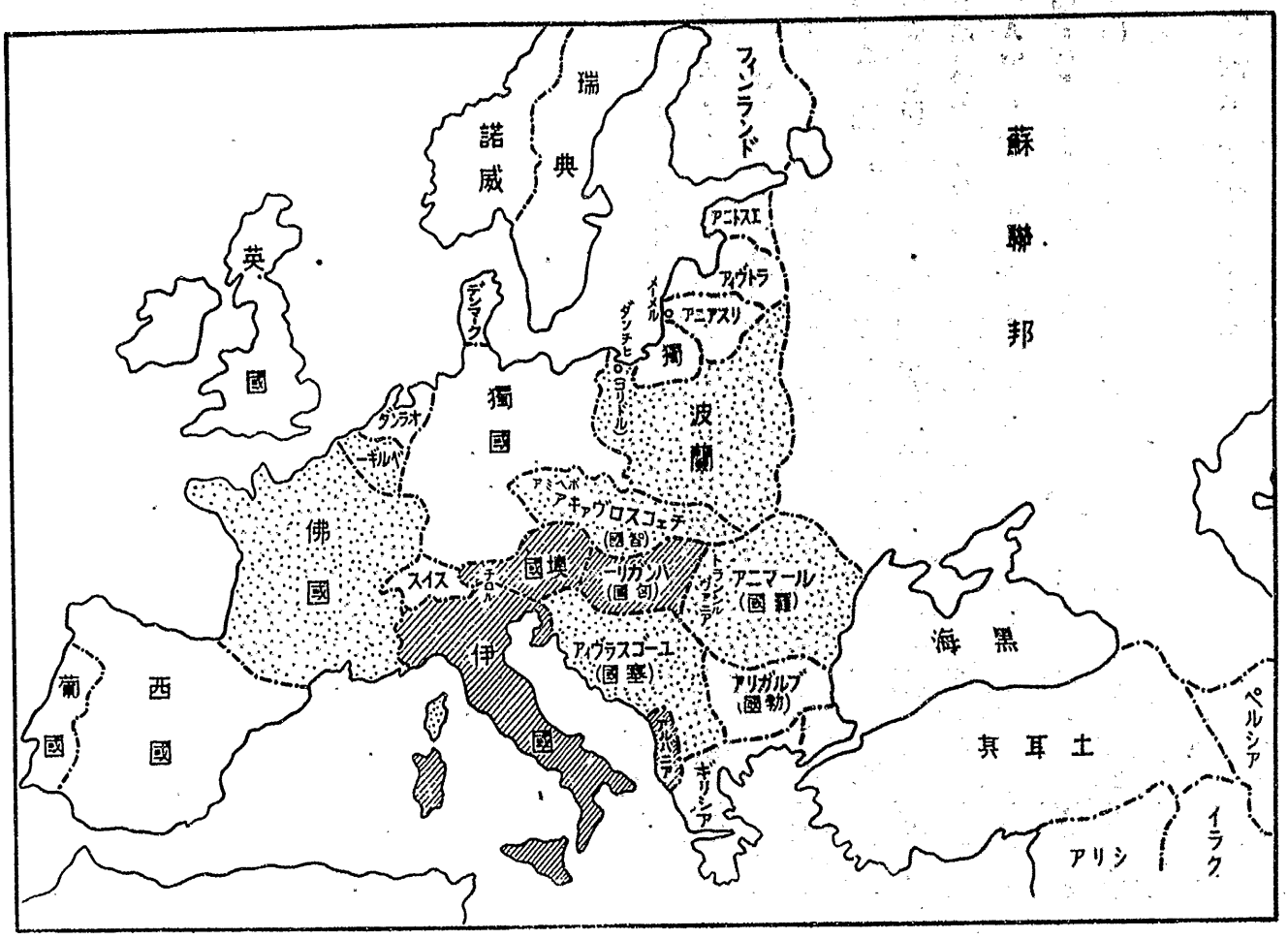
1130

1131

五　墺國を中心とする國際關係……二〇
六　四國協約……二二
七　經濟會議の失敗……二三
八　英、佛、白の關係……二四
結　言……二六

アジア歴史資料センター

歐洲現勢要圖



伊國ヲ中心ストルスト新ナル協商關係　　佛國ヲ中心ストルスト協商關係

アジア歴史資料センター

1133

不安なる歐洲の政情

前　言

皇國に於ては非常時が叫ばれて居る、否刻々と非常時は其の濃度を加へつゝあるが、此の非常時は極東のみに限られたものであるか、大西洋の彼方は果して波靜かなりや否や、人曰く歐洲は噴火山上に立てりと、又曰く第三の歐洲戰爭近きにありと、果して歐洲は斯く危機に瀕せるや、事實第二の歐洲大戰勃發すべき危險に直面せるや。

有力なる地位に在る某氏は外交時報誌上に論じて曰く「當分歐洲戰爭は起らぬ、何となれば彼等は疲弊し戰爭を嫌惡し、戰爭に訴へて迄も現狀を打破し樣とは考へてない、我國策を樹つるにも歐洲再び亂れて世界戰爭近づけりといふ樣な行き過ぎた考へ方は避け專ら平和的な經濟的な方面に全力を注いだがよい」と。

戰爭は勢である、宇宙の力である。誰か昭和六年九月十八日の滿洲事變を豫想したる

アジア歴史資料センター

ものある。誰か一九一四年七月二十九日に世界大戰勃發すべきを豫言し得しや。斯るが故に吾人は常に變に備ふるの用意を說き、備あれば必ず憂ひなきことを高唱しつゝあるのである。今や皇國を擧げて非常時意識に燃ゆる秋に、尙ほ夢想的平和に憧るゝ言論を聽くは意外とする所であり、更に一層國民の奮起を希望せざるを得ない次第である。以下歐洲の危機を逃さんとするに方り敢て異論を紹介し國民の注意を喚起せんとする所以である。

歐洲を擧げて獨裁右傾の流行は何が故か？

現下歐洲の政局を一瞥し誰しも感ずることは殆ど總ての列强が獨裁治下に在るか然らずんば右傾せる政治を布けることである。蘇聯邦は共產黨、獨逸はナチス、伊太利はファッシヨの完全なる獨裁であり、波蘭、埃太利及沿バルチク諸邦亦獨裁的であり、政黨政治の本場たる英國、自由平等の本家たる佛國は何れも揃つて歐洲大戰中にも劣らぬ强力なる擧國一致內閣を樹立し夫々强硬政策を實施しつゝあるではないか、殊に政黨屋の

アジア歴史資料センター

泥試合を以て有名なる佛國が最近一切の政爭を中止し前大統領ツーメルグを首班とする強力內閣を出現せしめ、從來文官を以て充てゐりし陸、海、空軍大臣の椅子に國軍の重鎭と目さるゝペタン元帥始め三名の軍人を列せしめたる如き歐洲國際政局の容易ならぬ事態に直面せることを物語るものである。此の如き事態を招來した原因は一體那邊に存するのであらうか？ソヴエトの獨裁はツアール並に側近奸臣の壓制に對する國民の反感及獨太世界征服陰謀の合作によるものと見らるべく、ファッショの出現は政黨の腐敗其極に達し爲めに國威地を拂ひ、大戰後の內治外交悉く列强の後塵を拜さねばならぬ破目に陷りし伊國の不甲斐なさに憤激し、衰亡の道程を辿らんとする伊國に活を入れ、其の興隆を計らんとせしに外ならざるべく、ナチスは共產主義と獨太の策謀により、將に溺落せんとする獨國を救濟すべく更に大戰前の大獨逸主義を復活すべく奮勃として興隆し來れる獨逸精神、屈辱的ヴエルサイユ條約に依り奪はれし國權を恢復し、國內に蟠居せし共產黨及獨太を殄滅しや純粹なる獨逸民族國家を再建せんとする欲求等に基くものな

1135

アジア歴史資料センター

るべく、佛國の政變は、ナチスの强硬政策に對抗すべくも又自由主義に立脚し、國際協調に墜じ、戰勝佛國の地位の低下を來し又不正腐敗に充滿し無爲無策の在來の政府に慊ちざる佛國民憤激の結果遂に擧國一致內閣の出現を要望するに至つたものと信ずる。

斯く歐洲各國の獨裁右傾の道程は夫々國情により異つて居るが、全般を通じて流るゝ一脈の共通なるテーマがある。それは現下の國際政情及經濟狀態の不安、大戰後生れ出でし自由主義協調外交の沒落と國家主義の勃興、政黨政治の缺陷暴露と信用の失墜並に斯かる時局に處じ國家の發展を策する爲め非常手段を必要とする即非常時意識の徹底である。右の共通の觀念は行き方をこそ異にすれ遂に申し合せた樣に斯かる情勢を導くに至つたものと考へられる。

この獨裁右傾の流行即極端なる國家主義思想の擡頭は大戰後始めて歐洲に起つた重大なる變化と申さねばならぬ。而して右に依り生ずべき列國の外交政策の强化は必然的に國際政情の不安醸成の一因子となりつゝある。

1136

アジア歴史資料センター

更に國際不安の因子として見逃し得ない重大なる政治的の變化が起りつゝあり、それは

[illegible] 歐洲に於ける平和機構の改變 [illegible]

である。世界大戰後十數年間の歐洲平和の樞軸は何と言つても國際聯盟及び之を中心とする國際協調主義であつた。換言すれば聯盟の機構内に於てヴエルサイユ、サンジエルマン、トリアノン等の諸平和條約を堅守し、戰勝國たる舊協商側及其擁立する新國家の領土及權益の現狀維持に依つて永遠の繁榮を圖ると共に戰敗國たる舊同盟側即獨墺、匈、勃等を去精國家として之をして蠢動の餘地なからしむることによつて平和を維持し來つたのである。即ち大戰以來の歐洲平和とは英、佛、白、波、羅、塞、智等の爲めのみの平和であり墺、匈、勃の諸國にとつては忍從辛苦の生活に外ならなかつたのである。

如何に敗戰せる舊同盟側と雖も何時迄も斯かる屈辱的條約の桎梏に甘んじて居る筈はない。十數年に亙る此の忍苦の平和はヒツトラー政權の出現によつて脆くも破れ、歐洲の天地は爲めに震駭したのである。[illegible]

アジア歴史資料センター

果してヒツトラーは平和條約の改訂を要求し、軍備の平等を要求し、一九三五年を待たずしてザール地方の獨逸歸屬を企圖し、大獨逸主義を天下に宣布した。

偶〻國際聯盟は日支紛爭に憤ふべからざる大錯誤を犯し、其生命とする軍縮會議及經濟會議は失敗し、二大理事國たる日獨の脱退等、相繼ぐ創痍の爲め完膚なき迄に其權威を失墜した。平和殿堂の倒壞は必然的に協調外交の根柢的破綻を來し、英佛中心の歐洲平和機構は遂に亂麻の如く混亂を生じ依存すべき大黒柱を失ひし列國は遂に經濟的、政治的にブロックを結成し自活自營せんとする傾向を來し、大戰前型の所謂合縱連衡の均勢外交に還元するに至つた。最近頻々として外電の傳ふる諸國間の協定、條約等の成立は即ちそれである。此の如き事態となつた原因は總て之を世界大戰の後始末の無理に歸することが出來る。

之を以て大戰の大地震に伴ふ餘震たるも早晩平靜に歸すべきものと輕視する向もあるが、大戰後の平和組織其物に重大なる過誤の存する限り之が根柢的の清算を爲すに非す

アジア歴史資料センター

んば到底歐洲の平和は求め得ないものと斷ずるの外あるまい。[illegible]

此の不安狀態が所謂列國の新なるプロツク政策に依つて安定すべきや否やは遽かに斷じ難き難問であるが、何れにせよ些細なる導火線によつて、收拾すべからざる全歐洲の動亂化すべき大爆發の危險性を包藏すべきことは否み得ない處であり、斯るが故に列强の對内外政策の强化も生れ出でざるを得なかつたのである。[illegible]

平和條約の談論

歐洲動機の禍根は平和會議に在る[illegible]

ウイルソンの民族自決主義の甘言に醉ふた全歐洲の民族は所謂一民族一國家の夢に憧れて、政治經濟上の關係も、久しき歴史も傳統も顧着なく、我勝ちにと雨後の筍の如くに小邦を造り上げた。又獨、墺、匈等の勃興と其復讐とを恐怖する餘り、英佛は前後の分別もなく之を分裂せしめ小邦となし、自己の傀儡國家を擁立し戰敗國をして永劫弱國ならしめんことを企圖した。斯くして成立せし獨立力乏しき小邦を保護し又戰敗國より掠奪せし領土、權益を永久に保持せんが爲め平和機構の美名の下に國際聯盟なるものを

アジア歴史資料センター

造り、領土の現狀維持と不戰の主義を確立し、國防主權を剝奪し獨墺匈諸國の兵力を極度に制限し(獨は十萬、墺は三萬、匈は三萬五千、勃は二萬に制限せられた)戰艦、軍用飛行機、戰車、重砲等の保有を禁じた。

獨立國家が國防の權利を有すべきは當然である。如何に戰敗國とは言へ條約により國防を限定せらるゝの故なきことは餘りにも明白である。茲に新興獨逸の抑制せんとするも能はざる憤懣の生ずるは蓋し已むを得ぬ所であらう。

壽府軍縮會議に於て軍備平等權を要求し其の容れられざるや遂に聯盟脱退の擧に出でしは誠に當然であつて、此點正に皇國の主張と一致するものがある。以下不自然なる國境の齎らしたる禍根に就て略述して見よう。

自活し得ざる墺匈國

大戰前の墺匈帝國は、神聖羅馬帝國の直系として、歐洲列强の上席に居り、五千萬の人口と二十四萬方哩の領域とを有する押しも押されぬ一等國であつた。然るに現在の墺太利は僅かに人口六百五十萬、面積三萬二千方哩の三等國に過ぎぬ。而も其の人口の三

アジア歴史資料センター

分一は首府ウインナに集中し面積の三分一は山岳であり他の三分一は森林である。戰前はトランシルヴァニヤの農業地帶とボヘミヤの工業地帶とを有し自給自足の國家であつたが其の何れをも失ひ、經濟的には殆ど獨立の能力なき弱邦となつた。最近迄は國外に贅澤品を賣りチエツクより工業資源を、匈國より農業品を購入し辛うじて經濟生活を營み來つたが、關稅の障壁に妨げられて意の如くならず遂に不面目にも國際聯盟の財政的援助迄も受けねばならぬ窮地に陷つた。

一九三一年に獨墺關稅同盟を企圖したのもそれ故にであつた。斯く零落しては墺國の生くる道は同文同種の獨國と合併するか、然らずんば沿ダニユーブ諸邦と經濟的に結合するか又は伊國と提携するかの外ないのである。

然るに沿ダニユーブの小協商國(智國、羅國、塞國)はサンジエルマン條約を楯に墺匈國に對し結束せる敵國であり、(一昨年三國間に嚴格なる協定が設けられ更に結束は鞏固となつた)獨墺の合併はヴエルサイユ、サンジエルマン兩條約の嚴禁せる所である。茲に

於てか墺として、自存の道は伊國と結ぶの二途あるのみとなる。

最近ナチスの墺國合併運動を機會に伊國が墺匈兩國と經濟提携の名義の下に三國協定を締結するに至つたのは誠に深き意味ありと言はねばならぬ。

次はやはり歐洲の癌と稱せらるゝ波國コリドル（ダンチヒ附近の獨國領土に挾まれて廊下の樣に細長くなつた波蘭領土の意）の問題である。凡そ世界に此位不自然且つ奇妙なる國境は又とあるまい。ダンチヒ自由市及コリドルの爲め獨逸國土は東西に二分されて居るのである。

波蘭コリドル問題

台所は自分の家に、座敷は隣家に在るといつた具合で不便此上ないのみならず獨立國家否嘗て世界を風靡せし一等國として此の如き屈辱、不體裁はあつたものでない。之は大戰後佛國の盟邦として獨露の提携を妨げ且つ獨國を小協商國と相俟つて東方より包圍牽制せんが爲め獨立せしめたる波蘭に海口を與へんが爲め仕組みたる芝居である。コリドルの回收はヒツトラー政權の重大政綱の一であり、將來に於て必ず遂行を期しある點

案である。波蘭としては萬一獨國が力づくを以てコリドルの回收を企圖せば必ずや茲に戰亂は勃發すべく、波蘭がコリドルを失ふことは死活の問題であるが故に、代償としてウイルナ問題により仇敵の間柄なるリスアニアのメーメルの奪取を企圖すべく然る時はリスアニアは唯一の海港を失ひふことゝなり、これ亦自國存亡の問題なるを以て國を賭しても爭ふことゝなるであらう。獨の實力によるコリドル回收は斯くして必然的に歐洲戰爭を誘發する危險がある。此問題は後述する如く本年一月締結の獨波不侵略條約によつて一時緩和せられた觀を呈して居るが之は單に危機勃發の時機を一時延期せしめたに過ぎぬ。

以上は不自然なる人爲的國境の如何に戰爭の禍根を包藏しあるやの例示に過ぎぬ、此種の不合理其他小數民族の問題等國境に關連する重要なる國際紛爭の種子は枚擧に遑なき程である。

伊國の對巴爾幹政策

歐洲大戰の結末に關連し伊國の對外政策に就て一言する必要がある。巴爾幹及近東發

アジア歴史資料センター

展其他の權益を條件に獨、墺、伊三國同盟を棄てゝ英佛側に加擔した伊國は、戰勝國の一員であり乍ら戰後の恩賞に浴する事他の列强に比し甚だ不十分なるを免れなかつた。此點伊國の頗る慊らざる所であり、旁々年來の宿志たる巴爾幹及中歐に驥足を伸さんとする野望がある。

これは伊國の大戰前より夢寐にも忘れぬ所であるが、從來露の巴爾幹に伸んとする汎スラヴ主義と巴爾幹近東に伸んとする汎獨主義との爲め妨げられた形であつた。偶々歐洲大戰勃發し露の沒落、獨の敗北により一時巴爾幹方面より右の二大勢力の退却せしに乘じ伊國は汎伊政策に著手し、先づ一九三七年十一月アルバニアとの防守同盟により巴爾幹發展の確乎たる地歩を獲得し、更に匈國と提携し墺國を抱き込み、一方獨墺の合併を妨げ他方佛の盟邦小協商三國と角逐し巴爾幹に覇權を確立せんとしつゝあつた。此時に方つて突如今回ナチスの墺國乗取り策動に會したのである。伊國が實力に訴へても獨の墺國ナチス化に反對すると息捲いたのも上述の如き政策の現はれに外ならぬ。尙ほ伊

アジア歴史資料センター

獨墺の關係に就ては後に述べる機會があるが、要するに伊國の巴爾幹發展は佛の盟邦たる小協商國と衝突を來す可能性あり、又獨墺合併防止に關しては佛國と同一の立場に在るを以て獨の墺國ナチス化乃至は合併策動に對しては佛と不即不離の關係に在つて實力に訴へても之を防止せんとする決意を有する以上茲にも戰禍の萌芽を見るのであつて巴爾幹の天地は依然として、歐洲の伏魔殿であり戰爭の危機は絶えず伏在しあるものと見ねばならぬ。

最近歐洲國際關係の微妙なる動き

歐洲に於ける平和體系がナチスの出現以來急速に變轉しつゝあることと及此の如き情勢を招來せしは平和條約の缺陷誤謬に因ること多きことは以上の説明で明かであると思ふ。然らば具體的に最近歐洲の平和體系は如何なる變化を見せつゝあるか、國際關係は如何なる動向を辿りつゝあるかを述べ逐次歐洲不安の眞相に觸れて見よう。

一　蘇獨關係の惡化

1145

アジア歴史資料センター

兩國は大戰以來極めて親善の關係に在つた。これは大戰末期以來共に共產國家として失意的境遇に在つた爲め互に同情し合つた事、兩國は接壤せぬ爲直接紛爭の原因なかりし事、露が獨の重工業に依存せし事、波蘭に對し共通の怨恨を有した事等に因るもので、一時蘇國をして「歐洲に於ける友邦は獨逸と土耳古である」と迄公言せしめた程であつた。所がヒツトラー出現以來蘇獨の關係は俄然變轉を來した。ヒツトラーの極端なる共產黨彈壓、在獨蘇國人への壓迫等の露骨なる政策、蘇聯邦の重工業の發達、獨の經濟的窮乏と共に獨に依存の必要輕減せし事等と相俟つて兩國の關係は急速に冷却し始めた。從來蘇伊兩國とのみ親善關係を保ちありし獨國として、又最近伊國と離れ蘇國との國交圓滑を缺くに至りし獨國として、後述するが如く波國と一時握手するに至つたのも蘇獨關係の惡化が影響あるものと考へられる。

二　蘇佛の接近

ヒツトラーの對蘇强硬政策に不快を感じた蘇國は大戰以來久しく提携せし獨と別れ

1146

アジア歴史資料センター

1147

約七十億金フランの對佛債務其他佛人の私有財産の沒收、赤化宣傳等の爲め戰後久しく敵視し合つた佛國と接近するに至つた事は注目に價する。即ち九三二年兩國間に不侵略條約を締結せしを手始めとし其後エリオの訪蘇、最近航空大臣コットの訪蘇等によつて、兩國は愈〻接近し、本年一月兩國間に更に通商條約の成立を見るに至つた。勿論往時の露佛同盟の如き親密さは無いにせよ仇敵の間柄であつた兩國が反對に接近を見るに至つた事は何と言つても重大なる變化である。此の蘇佛接近の眞意奈邊に存するやは茲に斷定することは出來ないが、ナチスの積極的政策の脅威、佛國の命の綱と頼む國際聯盟の凋落、佛國中心の平和體系の混亂等に依り漸く寂寞を感ずるに至つた佛國として背に腹は代へられず遂に年來の仇敵蘇國と握手するに至つたと見らるべく、偶〻獨國の蘇國との乖離は右の機運を促進せしめたものと考へられる。

三　蘇聯邦の非孤立化

蛇蝎の如く嫌忌せられた蘇聯邦が、內部的には著々として、第一次五年計畫を完成

アジア歴史資料センター

し更に第二次五年計畫に移り、重工業に軍備に、隔世的の發展を示しつゝある二方對外的には、八方塞りの孤立狀態を轉じて、今や政治的にも經濟的にもリトビノフ外相は縱横の手腕を揮つて國際外交をリードしつゝある觀がある、今や日、獨兩國を除き蘇聯邦を繞る殆ど總ての列國と親善關係を保持するに至つた。試みに今日迄設定せし主なる對外關係を列擧して見よう。

左の如く不侵略條約締結

一九二五年十二月　土耳其　　一九三二年二月　ラトヴィア
一九二六年四月　獨逸　　同　年五月　エストニア
同　年九月　リスアニア　　同　年七月　波蘭
一九二七年十月　ペルシア　　同　年十一月　佛國
一九三一年六月　アフガニスタン　　一九三三年九月　伊國
一九三二年一月　フインランド

アジア歴史資料センター

一九三三年七月左記諸國と侵略國定義條約締結

アフガニスタン、土耳其、ペルシア、フインランド、エストニア、ラトヴイア、リスワニア、波蘭、ルーマニア、チエツコスロヴアキア、ユーゴースラヴイア

其他

一九三二年十二月　蘇支國交回復　一九三三年十一月　蘇ウルグワイ國交回復

一九三三年五月　蘇伊通商クレチツト協定　一九三四年一月　蘇佛通商條約

同　年十一月　蘇米國交回復　同　年二月　蘇英通商約

右を通覽し最も顯著なる事實は大戰以來の仇敵波蘭との怨恨をかなぐり捨てゝ親善關係に入れること、十六年の久しきに亙り斷交狀態に在り而も蘇國不承認の態度を固持せし米國をして、遂に蘇國承認を斷行せしめた事に在る。日獨以外の隣邦に對し斯く善隣の關係を設定した事は革命以來英、米、佛、波、小協商等諸國の反蘇共同戰線の爲め手も足も出ぬ苦境に在つた時代と比較し、隔世的の飛躍であり、蘇聯邦外

1149

アジア歴史資料センター

交政策の成功として歐洲の現狀を檢討する上に見逃し得ない重要なる事項の一である。而して蘇國が此の如き重大なる外交政策の轉換を爲すに至つた原因は一方に於て如何に國內の充實に急なるかを物語るものなると共にヒツトラーの擡頭と極東に於ける新事態に對應せんが爲めの用意と見る事が出來る。就中波蘭、始め西隣諸邦との外交休戰の結果は目睫の間に迫れる極東の危機に際し吾人の豫期以上の國防力を極東に集中し得る可能性を與ふる意味に於て大いに吾人の關心を大ならしむるものである。

四　波獨の接近

波蘭は蘇獨兩國より分離して成立した其再建國の動機よりしても蘇、獨兩國と絕對に相容れぬ立場に在り、又佛國中心平和體系よりするも佛及小協商國と同盟し蘇、獨に對抗すべき責任を有して居たのである。又波獨間にはコリドル問題を始めダンチヒ自由市問題、上部シンジヤ問題等重要懸案山積し、大戰以來兩國間に眞の平和

アジア歴史資料センター

1151

の日を見ることなく就中コリドル問題は歐洲平和の癌と稱せられたものである。從つて一九三二年蘇波不侵略條約の締結を見るや、波蘭は一時蘇國と握手し專ら獨國一國に對し對抗すべく企圖するかに觀察せられたが、本年一月二十六日獨波間に十年間の期限を以て、不侵略條約が成立し兩國間の紛爭は武力に訴ふることなく平和的に處理すべき事を約するに及び獨波兩國は一時外交的休戰狀態に入つた感がある。これは大戰以來の歐洲國際關係の變化の中でも極めて重要なる意義を有するものと言ふべく、假令一時的にもせよ獨波接近の兆を見るに至つた事は對獨戰爭に於て相當大なる期待を波蘭にかけ居る佛國としては哀愁の感なき能はずであらう。獨の驚異的政策轉換の理由は佛國が蘇國と提携せること、獨にとつて歐洲時局の切迫は一時東方國境問題を犧牲に供するの止むを得ざる狀況にあること、換言せば獨國は東方に於て休戰し全力を擧げて軍備平等權の獲得、獨墺合併及ザール問題に猛進せんとするものと觀察せらるゝのである。一方波蘭側として近時佛國の對波政策

アジア歴史資料センター

に嫌らざるものあり、今回の擧は佛に對する二種の厭がらせとも見られぬでもない、何れにせよ獨波の提携の機運は獨佛均衡の見地より見て寧ろ不平和の前兆と見るべきであろう。

五　墺國を中心とする國際關係

墺國の自存し得ざる狀態に在る事が平和の禍根なることは既に述べたが、ナチス政權は夙に獨墺合併を夢見て居る、それは必ずしも英佛伊を對手にして迄も武力解決をし樣といふのではない、墺國ナチス勢力の强化により墺國民の聲として自然的に合併に至らしめんと考へつゝある。本年二月ナチスの墺國ナチスに對する最後の通牒は其現はれと見ることが出來る。

墺國內には六萬のナチス武裝黨員ありと稱せられ、之に對抗すべき政府軍は三萬の國防軍と二萬八千の警官と四萬人のファシッヨ軍（境土防衛軍）ありと言はれて居る。警官隊及ファッシヨ軍の一部はナチスに加擔する者ありと見られて居るから結

1152
アジア歴史資料センター

局對立武力は伯仲の間に在りと考へればよかろう。

獨のナチスは墺國のナチス化は易々たるものと高をくゝつてゐたらしいがドルフス鐵血首相は「墺國はヒツトラーの植民地ではない」と豪語して斷乎として墺國のナチス化に反對した。墺國は共和主義獨逸となら合併を希望するが、ナチスの治下には斷じて立たぬと意氣込んで居るのである。

墺國が何故斯くも强硬なる態度に出たかといふに、それは背後に獨墺合併に反對する英佛伊の三强力が控えて居ることを知つて居るからである。就中伊國は實力に訴へても墺國の獨立を擁護せんとするの決意を示した。伊國が斯くも墺國問題に關心を有するは、既に述べた如く同國の巴爾幹政策と汎獨政策とを一致せざることゝ、更に獨墺の合併により伊國は七千萬の大獨逸と國境を接せねばならぬことゝなり國防上不利ある外更に墺國より併合した南チロル地方の二十萬の獨逸人のナチス化の危險も生じて來るからである。伊國は勿論自ら墺國を併合し樣等と大それた考へは持つ

アジア歴史資料センター

まず。然し既に匈國とは協商を結び友好關係にあり、自らはハプスブルグ家復辟の同情者を以て任じあり、墺匈國との提携によつて伊國中心の經濟ブロック成形の見込もあり又佛國中心の小協商の勢力と對抗も出來ようといふわけ。本年三月十七日伊墺匈三國間に經濟協定の締結を見、伊國はトリエスト、フユーメ等のアドリアチク沿岸の港を墺、匈國の爲に開放し三國間に經濟的提携をすることゝなつた。其裏には政治的の意味が含まれて居ることは想像に難くないとの報があるが、蓋し右の政策の具現と見ることが出來よう、最近佛伊の關係は獨墺問題を中心として緩和の狀況に在るが果して前記の如き國際關係は小協商と伊國の對立、佛の對伊感情惡化を招き中歐の勢力均衡を破り波瀾の原因となることなきや疑問なき能はずである。

六　四國協約

今日の歐洲の不安の原因は歐洲大戰當時と同じく獨逸の勃興に歸因する事が多い、ヒツトラー政權下の獨國が平和條約の改訂を唱へ軍備平等權を要求し、歐洲の風雲

アジア歴史資料センター

1155

1128

漸く急なるものとするの形勢を看取したムッソリーニ伊國首相は、昨年三月英國首相マクドナルド及外相サイモンをローマに迎へ、所謂四國協約案なるものを提示した。伊國の主張は小國の跳梁する國際聯盟を離れ、大國の協調により平和的にヴエルサイユ條約を改訂し領土の修正を行ひ、他方獨の軍備平等權を認めんとするものであり、英國側も大體贊成であつたが佛國の强硬なる反對により、單に聯盟の機構内に於て對獨問題に關し四國の協調を約するに過ぎぬものとなつてしまつた。

が本協定の經緯によつても明瞭に窺ひ得る如く大戰以來獨國中心の勢力に對抗し來つた佛國中心勢力は、今や結束破れ秋風落日の觀を呈し伊國の今後の態度及歐洲勢力均衡のキヤスチングヴオトを把れる英國今後の態度如何に依つて歐洲政局は如何に逆轉するや計り難き狀況に在る。

七　經濟會議の失敗

昭和八年六月全世界を席捲する不景氣退治を實行すべく多大の期待を以てロンドン

アジア歴史資料センター

に開催せられた國際經濟會議は、開會匆々金本位を離れ通貨の安定を欲しない米國と（註　米國は金輸出禁止によつて國内物價上昇し産業漸く活氣を呈しつゝあつた爲固定的な協定によつてドル貨に束縛を受くることを不利とした）、飽く迄金本位に執著せんとする佛、伊、白、和、瑞西、波蘭等の大陸諸國との間に對立を生じ、一ヶ月に亘る迂餘曲折の後遂に何等の效果を得ずして解散した。この經濟會議の失敗は各國をして愈、經濟上の自由主義を見限つて自給自足の鎖國時代又は經濟ブロツク成形の機運を誘發し、全世界は暗澹たる暗の道を辿ることゝなつたのである。經濟上自立し得る英米は何とかやつて行け樣が其他の歐洲諸國は面喰はざるを得ない。經濟上の利益を同じうする國毎に結束して、經濟ブロツクにより此の難局を切拔けねばならぬことゝなつた。此の傾向は既に進んだ政局の不安に起因する新なる平和體系即政治的ブロツクの傾向と合體して愈、歐洲政情の混亂を來しつゝある。

八、英、佛、白の關係

白耳義は獨佛二大强國の間に介在し、何れに侵略せらるゝことをも欲せず。永久に

アジア歴史資料センター

1157

TT28

局外中立國たらん事を欲して居る。此中立を保障する役目を負擔する者は英國である。而して英國の大戰後の獨佛に對する政策は寧ろ强大なる軍備と經濟力とを有する佛國を抑壓して萎縮せる獨逸の擡頭を促すことにより大陸の均勢を保たんとする英國一流の傳統的外交政策を以て一貫して居る。獨の軍備平等權要求に對しても好意的態度を持して居ることは前述の四國條約の經緯に見るも明瞭である。從つて此の英佛獨の間に介在する白國として、自己の存立上或る程度迄英國と提携するに至るは已むを得ない處であり、最近アルベール王崩御の後プロツクビール首相が白國上院に於て獨の再軍備を認むる如き演說を爲したる事が時節柄問題を惹起したが右は此の間の消息を物語るものと思はれる。

以上の如く英國は、一方に於て佛を抑へ獨の再軍備を支持しつゝ他方獨の獨墺合併運動に對しては佛伊と協力して阻止するの態度に出づる等各種の紛爭に對し常に不即不離の立場に在つて調停的態度に出で、某一國をして過度に大なる勢力を獲得し

アジア歴史資料センター

歐洲均勢を破らざることゝ、自己の地盤に動搖を來さゝらんことに留意しつゝある。

此意味に於て英國は歐洲平和の鍵を握り居るものと稱する事も出來ようと思ふ。

結　言

以上の如くヒツトラー政權の出現を契機として歐洲の國際關係は一大轉機を齎らしつつある。

加ふるに軍縮會議、經濟會議の失敗は日獨兩國の聯盟脱退と共に大戰後十數年間を主宰せし歐洲平和機構に大破綻を生せしめた。其結果國際協調主義の沒落、經濟的政治的國家主義思想を復活せしめ各國は各、自己に有利なる盟邦を求めて合縱連衡を策し新なる國際關係を構成しつゝある。

大戰の總決算たる平和條約には幾多の無理と錯誤とを包藏し早晩之を是正すべき必要に迫りあり、平和的に之が解決を得る能はざれば獨國は實力に訴へても之が遂行に努むべく更生獨逸の再軍備完成せんか歐洲は再び大戰前の如き勢力の對立を生じ歐洲の天地

1158

アジア歴史資料センター

1159

は暗雲に蔽はるゝ事となるであらう。

上述の如き關係は現下歐洲不安の原因にして、之が爲め列國は經濟上多大の困難あるに拘らず軍備を擴張し或は既存軍備を改善補强し一面國策遂行の後援たらしめ一面來らんとする歐洲の危機に備へつゝある所以である。

眞に歐洲の現狀は極東に於て叫ばれつゝある危機にも劣らぬ非常時に直面し各國民は擧國一致して內治に外交に國防に懸命の努力を傾注しつゝある。實に歐洲各國政府の强化は內外情勢の必要より當然生るべくして出現したるものと言ひ得るのである。

歐洲の不安なること此の如し。然れども吾人は之を對岸の火災視することを得ない。太洋の水の相通ずる如く歐洲の事態は直ちに極東に影響を持つ。此の故に吾人は絕えず歐洲政局の變轉を注視し以て變に應ずるの準備を爲すと共に歐洲列强の國家精神に覺醒せる眞摯なる努力を他山の石として將に極東を襲ひ來らんとする危機に處するの鑑とし度いものである。

アジア歴史資料センター